資治通鑑 第 101 巻

令和 3 年 12 月 11 日

【晉紀二十三】　起上章涒灘，盡著雍執徐，凡九年。

■東晋、▲前燕、（続国訳漢文大成．経子史部 第 6 巻 179p より）

孝宗穆皇帝下升平四年（庚申３６０年）

【英雄・慕容儁没後の葛藤、恪が治める】

▲［前燕の慕容儁は卒し、慕容暐は即位す］春，正月，癸巳（２０日），燕主の**儁**は大いに鄴に於いて閲（兵）し，大司馬の**恪**、司空の**陽騖**（ようぶ）をして之を將いて入寇せ使めんと欲す。會々疾は篤く，乃ち**恪**、**騖**及び司徒の**評**、領軍將軍の**慕輿根**等を召して遺詔を受けて輔政さしむ。甲午（２１日），卒す（年 42）。戊子（戊戌なら２５日？），太子の**暐**（字は景茂、儁の第三子）は即位す，年は十一。大赦し，改元して建熙と為す。

前秦秦王の**堅**は司、隸を分けて雍州を置き，河南公の**雙**を以て都督雍、河、涼三州諸軍事（河涼二州は実土でなく、安定など五郡のみ支配）、征西大將軍、雍州刺史と為し，改めて趙公に封じ，安定に鎮ぜしむ。**封**の弟の**忠**を河南公と為す。

仇池仇池公の**楊俊**は卒し，子の**世**は立つ。

▲［慕容洛は太宰、慕輿根の企みを阻止］二月，燕人は**可足渾后**を尊びて**皇太后**と為す。太原王の**恪**を以て太宰と為し，專ら朝政を錄さしむ。(6-180p) 上庸王の**評**を太傅と為し，**陽騖**を太保と為し，**慕輿根**を太師と為し，朝政を參輔せしむ。**根**の性は木強にして，自ら先朝の勳舊を恃み，心は**恪**に服さず，舉動は倨傲なり。時に太后の**可足渾氏**は頗る外事に預る，**根**は亂を為さんと欲し，乃ち**恪**に言って曰く、

「今**主上**は幼沖にして，**母后**は政に干（あずか）かる，**殿下**は宜しく意外之變を防ぎ，以て自ら全くす有るを思うべし。且つ天下を定める者は，**殿下**之功也。兄亡くなりて弟が及ぶ，古今に法と成る，山陵の畢わるを俟ちて，宜しく**主上**を廢して王と為し，**殿下**は自ら尊位を踐むべし，以て大燕の無窮之福を為さん。」

恪は曰く、

「公は醉える邪？何の言之悖する也！吾は公と與に**先帝**の遺詔を受け，云何（いか）に而して遽（にわか）に此の議有るや？」

根は愧して謝りて而して退く。**恪**は以て吳王の**垂**に告げ，**垂**は**恪**に之を誅するを勸める。**恪**は曰く、

「今新たに（国の）大喪に遭い，二鄰（東晋・前秦）は釁を觀る，而るに宰輔が自ら相い誅夷すれば，遠近之望に乖（そむ）くを恐れる，且（しばら）く之を忍ぶ可し。」

▲［皇甫真も慕輿根誅殺を進言］秘書監（続による。臨は×）の**皇甫真**は**恪**に言って曰く、

「**根**は本より庸豎にして，過ちて**先帝**の厚恩を蒙り，引きて顧命に參ぜしめられる。而るに小人にして識無し，國哀（国の大葬）より已來，驕很は日に甚しく，將に禍亂を成さんとす。**明公**は今日**周公**之地に居り，當に社稷の為に深く謀り，早に之が所（処置）を為すべし。」

恪は聽さず。

▲［慕輿根誅殺、慕容恪の事態収拾］**根**は又た**可足渾氏**及び燕主の**暐**に言って曰く、

「太宰、太傅は將に不軌を謀らんとす，臣は禁兵を帥いて以て之を誅するを請う。」

可足渾氏は將に之に從わんとし，**暐**は曰く、

「二公は，國之親賢にして，**先帝**は之を選び，孤嫠（こり）を以て托す，必ず肯えて爾（しか）らず。安んぞ太師が亂を為さんと欲すに非ざるを知る也！」

乃ち止む。**根**は又た東土（前燕領土の東の龍城）を戀いんと思い，**可足渾氏**及び**暐**に言って曰く、
「今天下は蕭條にして，外寇は一に非らず，國の大なれば憂いは深く，東に還るに如かず。」
恪は之を聞き，乃ち太傅の**評**と謀り，密かに**根**の罪狀を奏し，右衛將軍の**傅顔**をして内省に就きて**根**，並びに其の妻子、黨與を誅さ使む。（人心安定のために）大赦す。是の時新たに大喪に遭いて，誅夷は狼籍し，内外は恟懼するも，太宰の**恪**の舉止は常の如く，人は其の憂色有るを見ず，出入する毎に，一人歩みて從う。或るひとは以て宜しく自ら戒備するを説く，**恪**は曰く、
「人情は方に懼れ，當に安重にして以て之に鎮（しず）めるべし，奈何ぞ復た自ら驚擾せん，衆は將（は）た何を仰ぐや！」
是に由りて人心は稍々定まる。
▲［**慕容恪の衆議を盡くす政治**］**恪**は大任を綜すると雖も，而も朝廷之禮は，兢兢として嚴謹し，事毎に必ず司徒の**評**と之を議し，未だ嘗て專決せず。心を虚しくして士を待ち，善道を咨詢し，才を量りて任を授け，人は位を逾えず。官屬、朝臣は或は過失有れば，其の狀を顯さず，宜しきに隨いて他敘（他の官に遷す）し，倫を失わ令めず，唯だ此を以て貶と為す。時の人は以て大愧（大恥）と為し，敢えて犯す者莫し。或は小過有れば，自ら相い責めて曰く、
「爾は復た宰公（太宰の恪）が官を遷すを望まんと欲する邪！」
■［**桓溫は中原進出を留める**］朝廷は初めて**燕主**の**儁**の卒するを聞き，（6-181p）皆な以為らく中原は圖る可しと。**桓溫**は曰く、
「**慕容恪**は尚ほ在り，憂いは方に大なる耳。」
▲［**慕容垂を登用して政権安定**］三月，己卯（７日），燕主の**儁**を龍陵（龍城にあり、現・朝陽市）に葬し，謚して**景昭皇帝**と曰い，廟號を**烈祖**とする。征する所の郡國の兵は，燕朝の多難なるを以て，互いに相い驚動し，往往にして擅（ほしいまま）に自ら散じ歸り，鄴より以南は，道路は斷塞する。太宰の**恪**は吳王の**垂**を以て使持節、征南將軍、都督河南諸軍事、兗州牧、荊州刺史と為し，梁國之蠡台に鎮ぜしめ，**孫希**を并州刺史と為し，**傅顔**を護軍將軍と為し，騎二萬を帥いて，河南，臨淮を觀兵して而して還り，境内は乃ち安ず。**希**は，**泳**（孫泳が趙を防ぐ事 96 巻成帝咸康四年にあり）之弟也。

【匈奴の劉衛辰と什翼犍】

前秦［**劉衛辰は苻堅に降る**］匈奴の**劉衛辰**は遣使して秦に降り，内地に田し，春來て秋返るを請う。秦王の**堅**は之を許す。夏，四月，雲中護軍の**賈雍**は**司馬徐贇**を遣わして騎を帥いて之を襲い，大いに獲りて而して還る。**堅**は怒りて曰く、
「**朕**は方に恩信を以て戎狄を懷かしめんとす，而るに汝は小利を貪（むさぼ）りて以て之を敗る，何ぞ也！」
雍を黜けて白衣を以て職を領せしめ，遣使して其の獲る所を還し，之を慰撫す。**衛辰**は是に於いて入りて塞内に居り，貢獻相い尋ぐ。
代［**什翼犍と劉衛辰の婚姻**］夏，六月，代王の**什翼犍**の妃の**慕容氏**は卒す。秋，七月，**劉衛辰**は代に如き葬に會し，因りて婚を求め，**什翼犍**は女を以て之に妻す。
■八月，辛丑（１日）朔，日之を食する有り，既（つ）く。

【清談派の謝安登場】

■［**謝安は遂に桓溫の司馬となる**］**謝安**は少くして重名有り，前後に徵辟せらるるも，皆な就かず，會稽

に寓居し，山水、文籍を以て自ら娯(たのし)む。布衣為(た)りと雖も，時の人は皆な公輔を以て之を期す，士大夫は相い謂って曰うに至る、
「**安石**（謝安の字）は出でざれば，當に蒼生を如何にせん！」
安は毎に東山（浙江省会稽道上虞県西南 45 里、現・紹興市上虞区）に游び，常に妓女を以て自ら隨う。司徒の**昱**は之を聞き，曰く、
「**安石**は既に人と樂しみを同じくす，必ず人と憂いを同じくせざるを得ず，之を召せば必ず至らん。」
安の妻は、**劉惔**（清談派）之妹也，家門の貴盛なるに而して**安**は獨り靜退するを見，謂って曰く、
「丈夫は此くの如くならざる也？」
安は鼻を掩いて曰く、
「免かれざらんことを恐れる耳。」
弟の**萬**が廢黜せらるるに及び，**安**は始めて仕進之志有り，時に已に年は四十餘。征西大將軍の**桓溫**は司馬と為すを請い，**安**は乃ち召しに赴き，**溫**は大いに喜び，深く之を禮重す。

前秦［獨孤部、沒弈干は塞外に留める］冬，十月，烏桓の**獨孤部**、鮮卑の**沒弈干**は各々衆數萬を帥いて秦に降り，秦王の**堅**は之を塞南に處く。陽平公の**融**は諫めて曰く、
「戎狄は人面獸心にして，仁義を知らず。其の稽顙して内附するは，實は地の利を貪り，德を懷しむに非ざる也。敢えて邊を犯さず。實は兵威を憚り，恩に感じるに非ざる也。今之を塞内に處き，民と雜居せしめれば，彼は郡縣の虛實を窺い，必ず邊患と為る，之を塞外に徙して以て未然に防ぐに如かず。」
堅は之に從う。(6-181p)
■十一月，**桓溫**を封じて南郡公と為し，**溫**の弟の**沖**を豐城縣公と為し，子の**濟**を臨賀縣公と為す。
▲［慕容暐は李績のみ許さず］燕の太宰の**恪**は**李績**を以て右僕射と為さんと欲し，燕主の**暐**は許さず。**恪**は屢々以て請いを為し，**暐**は曰く、
「萬機之事は，皆な之を叔父に委ねる，**伯陽**一人は，**暐**は獨裁を請う。」（前巻前年に平らかならずあり）
出して章武太守と為し，憂いを以て卒す。

孝宗穆皇帝下升平五年（辛酉３６１年）

■春，正月，戊戌（３０日、朔なら２月），大赦す。
前秦［劉衛辰は代に附く］**劉衛辰**は秦の邊民五十餘口を掠めて奴婢と為し以て秦に獻ず。秦王の**堅**は之を責め，掠むる所を歸さ使む。**衛辰**は是に由りて秦に叛し，專ら代に附く。
■東安の簡伯の**郗曇**(ちたん)は卒す。二月，東陽太守の**范汪**を以て徐、兗、青、冀、幽五州諸軍事を都督し，徐、兗二州刺史を兼ねしむ。
▲平陽人は郡を舉げて燕に降る。燕は建威將軍の**段剛**を以て太守と為し，督護の**韓苞**を遣わして兵を將いて共に平陽（張平に属す、現・山西省臨汾市）を守らしむ。
▲方士の**丁進**は燕主の**儁**に寵有り，媚を太宰の**恪**に求めんと欲し，**恪**に説きて太傅の**評**を殺さ令めんとす。**恪**は大いに怒り，奏して收めて之を斬る。
■［野王の包囲戦］**高昌**（三年に滎陽に走る）は卒す，燕の河内太守の**呂護**並びに其の衆は，遣使して來降す。**護**を拜して冀州刺史とす。**護**は晉兵を引いて以て鄴を襲わんと欲す。▲三月，燕の太宰の**恪**は兵五萬を將

し，冠軍將軍の**皇甫真**は兵萬人を將して，共に之を討つ。燕兵は野王に至り，**護**は城を嬰して自ら守る。護軍將軍の**傅顔**は急に之を攻めんと請い，以て大費を省かんとす。**恪**は曰く、

「老賊は變を經ること多し矣，其の守備を觀るに，未だ猝(にわ)かに攻めるは易からず。頃(このごろ)黎陽を攻め（前巻２年にあり），多く精鋭を殺し，卒に拔く能わず，自ら困辱を取る。**護**は内に蓄積無く，外に救援無く，我は溝を深くし高壘を高くして，坐して而して之を守り，兵を休め士を養い，其の黨を離間すれば，我に於いては勞せずして而して賊の勢いは日に蹙(ちじ)まる。十旬を過ぎずして，之を取るは必ず矣，何為れぞ多く士卒を殺し以て旦夕之功を求めん乎！」

乃ち長圍を築いて之を守る。（元嘉暦ならここで三月閏月有り）

■［桓豁は慕容塵の許昌を取る］夏，四月，**桓溫**は其の弟の黄門郎の**豁**を以て沔中七郡（魏興・新城・上庸・襄陽・義成・竟陵・江夏）諸軍事を督して，新野、義成二郡太守を兼ねしめ，兵を將いて許昌を取り，燕將の**慕容塵**を破る。

前涼［涼の宋混の後継］涼の驃騎大將軍の**宋混**は疾甚しく，**張玄靚**及び其の祖母の**馬氏**は往きて之を省し，曰く、

「將軍が萬一不幸ならば，寡婦（馬氏）孤兒（張玄靚）は將に何くの所に托するや！**林宗**を以て將軍に繼がんと欲す，可ならん乎？」

混は曰く、

「臣の子の**林宗**は幼弱にして，大任に堪えず。**殿下**は倘(もし)未だ臣が門を棄てざれば，(6-183p) 臣の弟の**澄**は政事は臣より愈(まさ)れり，但だ其の儒緩（事を為す事緩慢）なりて，機事には稱(かな)わざらん（臨機応変でない）を恐れる耳。**殿下**は策勵し而して之を使えば，可也。」

混は**澄**及び諸子を戒めて曰く、

「吾が家は國の大恩を受け，當に死を以て報いるべし，勢位を恃みて以て人に驕る無かれ。」

又た朝臣を見，皆な之を戒しめるに忠貞を以てす。卒するに及びて，行路は之が為に涕を揮(ふる)う。**玄靚**は**澄**を以て領軍將軍，輔政と為す。

■［東晋の穆帝は卒す］五月，丁巳（２２日），**帝**は崩ず（年は 19），嗣無し。**皇太后**は令して曰く、

「琅邪王の**丕**は，中興の正統（元帝・明帝・咸帝は正統相伝え、丕は咸帝長子）にして，義望情地は，與に比を為す莫く，其れ王を以て大統を奉ぜん！」

是に於いて百官は法駕を備え琅邪第に迎える。庚申（２５日），**皇帝**に即位し，大赦す。壬戌（２７日），改めて東海王の**弘**を封じて琅邪王と為す。秋，七月，戊午（２３日），**穆帝**を永平陵に葬し，廟號を**孝宗**とする。

■▲［慕容恪は野王の呂護を撃破］燕人は野王を圍むこと數月，**呂護**は其の將の**張興**を遣わして出でて戰わしめ，**傅顔**は撃ちて之を斬り，城中は日々蹙まる。**皇甫真**は部將を戒めて曰く、

「**護**の勢いは窮まり奔突すれば，必ず虚隙を擇びて而して之に投ぜん。吾が所部の士卒は多く羸(ぞ)つれ，器甲は精ならず，宜しく深く之が備えを為すべし。」

乃ち多く櫓楯を課し，親ら行夜者（夜回り）を察す。**護**の食は盡き，果たして夜精鋭を悉して**真**の所部に趨き，圍を突くも，出ることを得ず。太宰の**恪**は兵を引いて之を撃ち，**護**の衆は死傷して殆んど盡き，妻子を棄てて滎陽に奔る。**恪**は降民を存撫し，其の廩食を給す。士人、將帥を鄴に徙し，自餘は各々樂しむ所

に隨わしむ。**護**の參軍の廣平の**梁琛**を以て中書著作郎と為す。
■九月，戊申（１４日），妃の**王氏**を立てて**皇后**と為す。后は，**濛**之女也。**穆帝**の**何皇后**は**穆皇后**を稱し，永安宮に居らしむ。
前涼涼の右司馬の**張邕**は**宋澄**の專政を惡み，兵を起こして**澄**を攻め，之を殺し，並びて其の族を滅ぼす。**張玄靚**は**邕**を以て中護軍と為し，叔父の**天錫**を中領軍と為し，同じく輔政さしむ。
前秦▲［張平は燕の平陽を襲い、秦に攻められ燕に滅ぼされる］**張平**は燕の平陽を襲い，**段剛**、**韓苞**を殺す。又た雁門を攻め，太守の**單男**を殺す。既に而して秦の攻める所と為り，**平**は復た燕に謝罪して以て救いを求める。燕人は**平**の反覆するを以て，救わざる也，**平**は遂に秦の滅ぼす所と為る。
前秦乙亥（４１日?），秦は大赦す。
■［范寧の儒学］徐、兗二州刺史の**范汪**は，素より**桓溫**の惡む所と為る，**溫**は將に北伐せんとし，**汪**に命じて衆を帥いて梁國に出でしむ。冬，十月，期を失するに坐して，免ぜられて庶人と為し，遂に廢せられ，家に於いて卒す。子の**寧**は，儒學を好み，性は質直にして，常に謂う、
「**王弼**、**何晏**之罪は**桀**、**紂**よりも深し。」
或は以て為す、
「之を貶すること太だ過ぎたり。」
寧は曰く、
「**王**、**何**は典文（典礼文章）を蔑棄し，仁義を幽沈し，游辭浮說は，後生を波蕩し，搢紳（大官高位の人、笏を挟む帶のこと）之徒をして翻然と轍を改め使め，以て禮は壞れ樂は崩れ，中原は傾覆するに至り，(6-184p) 遺風餘俗は，今に至るまで患いと為る。**桀**、**紂**の暴を一時に縱（ほしいまま）にすれども，適々足以て身を喪（ほろぼ）し國を覆（くつがえ）し，後世の戒めと為るに足る，豈に能く百姓之視聽を回（続は廻）らせん哉！故に吾は以為らく一世之禍いは輕く，歷代之患いは重し，自ら喪う之惡は小さく，衆を迷わすの之罪は大也。」
■**呂護**は復た叛し，燕に奔り，燕人は之を赦し，以て廣州刺史と為す。（燕に廣州は無し、刺史の名のみ）

【前涼の張天錫は張邕を滅ぼす】

前涼［張天錫は張邕を滅ぼし、東晋の年号採用］涼の**張邕**は驕矜淫縱にして，黨を樹て權を專らにし，多く刑殺する所，國人は之を患うる。**張天錫**（てんせき）の親する所の敦煌の**劉肅**は**天錫**に謂って曰く、
「國家の事は未だ靜かならずを欲する！」
天錫は曰く、
「何の謂う也？」
肅は曰く、
「今護軍の出入（挙動）は，**長寧**（長寧公張祚）に似たる有り。」
天錫は驚いて曰く、
「我は固より之を疑い，未だ敢えて口より出さず。計（はかりごと）は將に安（いず）くに出でんや？」
肅は曰く、
「正に當に速かに之を除く耳！」
天錫は曰く、
「安くに其の人を得るや？」
肅は曰く、

「**肅**は即ち其の人也！」
肅は時に年は未だ二十にならず。**天錫**は曰く、
「汝は年少にして，更に其の助けを求めるべし。」
肅は曰く、
「**趙白駒**と**肅**と二人にて足らん矣。」
十一月，**天錫**は**邕**と俱に入朝し，**肅**と**白駒**は**天錫**に従い，**邕**に門下に値(あ)い，**肅**は之を斫れども中たらず，**白駒**は之に繼ぎ，又た克たず，二人は**天錫**と俱に宮中に入り，**邕**は逸かるるを得て走り，甲士三百餘人を帥いて宮門を攻める。**天錫**は屋に登りて大呼して曰く、
「**張邕**は凶逆にして無道，既に宋氏を滅ぼし，又た我が家を傾覆せんと欲す。汝ら將士は世々涼の臣為(た)り，何ぞ兵を以て相い向かうに忍ぶる邪！今取る所の者は，止だ**張邕**耳(のみ)，它は問う所無し！」
是に於いて**邕**の兵は悉く散り走り，**邕**は自刎して死し，盡く其の族黨を滅ぼす。**玄靚**は**天錫**を以て使持節、冠軍大將軍、都督中外諸軍事と為し，政を輔さしむ。十二月，始めて建興四十九年を改めて，升平の年號（涼は初めて建康の年号を使用）を奉り，詔して**玄靚**を以て大都督、督隴右諸軍事、涼州刺史、護羌校尉、西平公と為す。
▲燕は大赦す。
前秦［苻堅の人材登用と善政］秦王の**堅**は牧伯守宰に命じて各々孝悌、廉直、文學、政事を舉げしめ，其の舉げる所を察し，人を得る者は之を賞し，其の人に非ざる者は之を罪とす。是に由りて人は敢えて妄舉する莫く，而して請托は行われず，士は皆な自ら勵(はげ)む。宗室の外戚と雖も，才能無き者は皆な棄てて用いず。當に是之時，内外之官は，率(おおむ)ね皆な職に稱(かな)う。田疇（田畑）は修辟（修正開墾）し，倉庫は充實し，盜賊は屏息す。
■是の歳，歸義侯の**李勢**は卒す。（永和三年に降る）

哀皇帝孝宗穆皇帝下隆和元年（壬戌３６２年）

（哀皇帝=諱は丕、字は千、成帝の長子）
■春，正月，壬子（２０日），大赦し，改元す。(6-185p)
■甲寅（２２日），田租を減じ，畝ごとに二升を收める。（成帝咸康五年百姓の検地をして畝に三升）
▲［洛陽をめぐる緊張］燕の豫州刺史の**孫興**は洛陽を攻めんと請い，曰く、
「晉將の**陳祐**は弊卒は千餘にして，孤城を介守(獨り守る)す，取るに足らざる也！」（取ることは容易）
燕人は其の言に從い，寧南將軍の**呂護**を遣わして河陰に屯せしむ。
■［庾希を下邳、袁真を汝南に鎮す］二月，辛未（１０日），吳國内史の**庾希**を以て北中郎將、徐、兗二州刺史と為し，下邳に鎮ぜしめ，龍驤將軍の**袁真**を西中郎將、監護豫、司、並、冀四州諸軍事、豫州刺史と為し，汝南に鎮ぜしめ並んで節を假す。**希**は，**冰**之子也。
■丙子（１５日），**帝**の母の**周貴人**を拜して**皇太妃**と為し，儀服は**太后**に擬す。
■［燕の呂護は洛陽攻撃、桓溫は庾希ら防衛］燕の**呂護**は洛陽を攻める。三月，乙酉（５４日?），河南太守の**戴施**（永和 12 年桓温は戴施を留めて洛陽を守らせる）は宛に奔り，**陳祐**は急を告げる。五月，丁巳（１７日），**桓溫**は**庾希**及び竟陵太守の**鄧遐**を遣わして舟師三千人を帥いて**祐**を助けて洛陽を守らしむ。**遐**は、**岳**（続は嶽、王敦の将）之子也。

【洛陽遷都論を採用せず】

■［桓溫の洛陽遷都論に孫綽は反駁］溫は上疏して、

「請う洛陽に遷都せん。永嘉之亂より江表に播渡する者は，一切を北に徙し，以て河南を實せん。」

朝廷は**溫**を畏れ，敢えて異を為さず。而して北土は蕭條として，人情は疑い懼れ，並びに不可なるを知ると雖も，敢えて先ず諫める莫し。散騎常待の領著作郎の**孫綽**は上疏して曰く、

「昔**中宗**（元帝の廟号）の龍飛するは，惟だ信（人の助ける者）順（天の助ける者）にして天人に協するに非ず，實に萬里の長江に賴りて畫して而して之を守る耳。今喪亂より已來，六十餘年，河、洛は丘墟となり，函夏（中原）は蕭條たり。士民は江表に播流すること，已に數世を經て，存する者は老子（老人）長孫，亡する者は丘隴行（行列）を成す，北風之思い（故郷を思う）は其の素心（前々からもっている考え）に感じると雖も，目前之哀しみは實に交々切なりと為す。若し遷都して軫（車の横木）を旋らす之日には，中興の五陵（中興以後の江南にある陵）は，即ち復た緬かに遐域（はるかに遠い地域）と成さん。秦山之安き（洛陽に遷都しても泰山の安きとはならない）は，既に理を以て保ち難く，烝烝（盛んに起こるさま）之思いは，豈に聖心に纏わざらん哉！**溫**の今の此の舉は，誠に大いに始終を覽じ，國の遠圖（遠大なはかりごと）を為さんと欲す。而るに百姓は震駭し，同じく危懼を懷き，豈に舊に反る之樂しみは賒かにして，而して死に趨く之憂いは促かなるを以てならず哉！何となる者や？根を江外（江南）に植えるは，數十年矣，一朝にして頓に之を拔かんと欲す，窮荒之地に驅蹴（追い詰める）す。萬里に提挈（提携）し，險を逾え深きに浮かび，（6-186p）墳墓を離れ，生業を棄て，田宅は復た售（売）る可からず，舟車は從りて而して得る無し。安樂之國を捨て，習亂（戦乱が重なる）之鄉に適き，將に道塗（みち）に頓僕し，江川に飄溺し，僅かに達する者有らん。此れ仁者の宜しく哀矜（悲しみ哀れむ）する所，國家の宜しく深慮する所也！臣之愚計は，以為らく且らく宜しく將帥の威名、資實有る者を遣わし，先ず洛陽を鎮ぜしめ，梁（国）、許（都）を掃平し，河南を清壹すべし。運漕之路は既に通じ，開墾之積は已に豐かに，豺狼は遠く竄れ，中夏は小康して，然る後に徐ろに遷徙を議する可き耳。奈何ぞ百勝之長理を捨て，天下を舉げて而して一擲せん哉！」

綽は，**楚**之孫也。少くして高尚を慕い，嘗て《遂初の賦》を著し以て志を見わす。**溫**は**綽**の表を見て，悅ばず，曰く：

「意を興公（孫綽の字）に致し，何ぞ君の《遂初の賦》を尋ねずして，而して人の家國の事を知る邪！」

■［桓溫への詔勅は行われず］時に朝廷は憂懼し，將に侍中を遣わして**溫**を止めんとし，揚州刺史の**王述**は曰く、

「**溫**は虛聲を以て朝廷を威さんと欲す耳，事實に非ざる也。但だ之に從えば，自ら至る所無し。」

乃ち**溫**に詔して曰く、

「昔喪亂在り，忽ち五紀（五十年）に涉り，戎鍬（続は狄）は暴を肆にして，凶跡を繼襲し，眷みて言に西顧すれば，慨歎は懷に盈てり。躬ら三軍を帥い，氛穢を蕩滌（洗いすすぐ）し，中畿を廓清（悪いものを取り除く）し，舊京を光復せんと欲するを知る，夫れ身を外にして國に徇うに非ずんば，孰か能く此くの若きや？諸々の處分する所，之を高算（卿の計画）に委ねる。但だ河洛は丘墟たり，營む所の者廣し，經始之勤め，勞懷を致さん也。」

事果たして行われず。

■**溫**は又た洛陽の鐘虡を移さんと議す。**述**は曰く、

「永嘉は競わず，暫く江左に都し，方に當に區宇を蕩平し，軫を舊京に旋すべし。若し其の爾らざれば，宜しく改めて園陵を遷すべし，應に先ず鐘虡を事とすべからず！」

溫は乃ち止む。
■朝廷は交、廣の遼遠を以て，改めて**溫**に都督並、司、冀三州を授ける。**溫**は表して辭して受けず。

前秦秦王の**堅**は親ら太學に臨み，諸生の經義を考第し，博士と講論し，是れより毎月一たび焉に至る。
▲六月，甲戌（１５日），燕の征東參軍の**劉拔**は征東將軍、冀州刺史、范陽王の**友**を信都に於いて刺殺す。
■［呂護は流れ矢に当たり卒す］秋，七月，**呂護**は退きて小平津を守り，流矢に中たりて而して卒す。燕將の**段崇**は軍を北に渡し，野王に屯す。**鄧遐**は進みて新城（河南省開封道商邸県、商丘市睢陽区）に屯す。八月，西中郎將の**袁真**は進みて汝南に屯し，米五萬斛を運び以て洛陽に饋る。
代冬，十一月，代王の**什翼犍**は女を燕に納れ，燕人は亦た女を以て之に妻す。
■十二月，戊午（１日）朔，日之を食する有り。
■［東晋軍は下邳汝南から撤退］**庾希**は下邳より退きて山陽に屯し，**袁真**は汝南より退きて壽陽に屯す。
（6-187p）

孝宗穆皇帝下興寧元年（癸亥，３６３年）

■春，二月，己亥（４３日?），大赦し，改元す。
■三月，壬寅（１７日），皇太妃の**周氏**は琅邪の第に薨ず。癸卯（１８日），**帝**は第に就きて喪を治め，詔して司徒の會稽王の**昱**をして内外の衆務を總ぜしむ。**帝**は**太妃**の為に三年服せんと欲し，僕射の**江彪**は啟す、
「禮に於いては，應に緦麻（三ヶ月の喪の服）を服すべし。」
又た服を降して期ならんと欲し，**彪**は曰く、
「私情を厭屈するは，**上**が祖考を嚴（たっと）（尊）ぶ所以なり。」
乃ち緦麻を服す。
▲夏，四月，燕の寧東將軍の**慕容忠**は滎陽太守の**劉遠**を攻め，**遠**は魯陽に奔る。
■［桓溫の昇進、黄鉞を假す］五月，征西大將軍の**桓溫**に侍中、大司馬、都督中外諸軍、錄尚書事を加え，黄鉞を假す。**溫**は撫軍司馬の**王坦之**を以て長史と為す。**坦之**は，**述**（303-368、本貫は太原郡晉陽県、太原王氏）之子也。又た征西掾の**郗超**を以て參軍と為し，**王珣**を主簿と為し，事毎に必ず二人と之を謀る。府中は之が為に語りて曰く、
「髯參軍（郗超は髭多し），短主簿（王珣は背が低い），能く公をして喜ば令め，能く公をして怒ら令む。」
溫の氣概は高邁にして，推す所有るは罕（まれ）なり。**超**と言うや，常に自ら謂うに測る能わずと，身を傾けて之を待つ。**超**も亦た深く自ら結納す。**珣**は，**導**（元勲王導 276-339）之孫也，**謝玄**と皆な**溫**の掾と為り，**溫**は俱に之を重んじる。曰く、
「**謝掾**は年四十にして必ず旄（ぼう）を擁し節に杖らん，**王掾**は當に黒頭公（年少にて公となる）と作（な）るべし，皆な未だ易からざるの才也。」
玄は，**奕**（升平二年卒）之子也。
■西中郎將の**袁真**を以て司、冀、並三州諸軍事を都督せしめ，北中郎將の**庾希**に青州諸軍事を都督せしむ。
▲［燕は密城を抜き、劉遠は江陵に奔る］癸卯（１９日），燕人は密城（滎陽郡、河南省開封道密県、現・鄭州市新

密市）を拔き，**劉遠**は江陵に奔る。

■秋，八月，星（彗星）有りて角、亢（２８宿の二）に於いて孛す。

前涼［張天錫は張玄靚を殺して立ち、東晋に使者］**張玄靚**の祖母の**馬氏**は卒し，庶母の**郭氏**を尊して**太妃**と為す。**郭氏**は**張天錫**が政を專らにするを以て，大臣の**張欽**等と之を誅さんと謀る。事は洩れ，**欽**等は皆な死す。**玄靚**は懼れ，位を以て**天錫**に讓らんとし，**天錫**は受けず。右將軍の**劉肅**等は**天錫**に自ら立つを勸める。閏月（元嘉暦では１１月が閏月），**天錫**は**肅**等をして夜兵を帥いて宮に入り，**玄靚**を弑せ使め，暴（にわか）に卒すと宣言し，謚して**沖公**と曰う。**天錫**は自ら使持節、大都督、大將軍、涼州牧、西平公を稱し，時に年は十八。母の**劉美人**を尊して**太妃**と曰う。司馬の**綸騫**を遣わして章を奉じて建康に詣らしめ命を請い，並んで御史の**俞歸**（穆帝永和３年に涼州に使いす）を送りて東に還らしむ。

■癸亥（?、月を確定できず），大赦す。

▲［慕容廆は長平を攻め、朱斌は許昌を襲う］冬，十月，燕の鎮南將軍の**慕容廆**は陳留太守の**袁披**を長平（河南省開封道西華県、現・周口市西華県）に攻める。汝南太守の**朱斌**は虚に乘りて許昌を襲い，（6-188p）之に克つ。

代代王の**什翼犍**は高車（勅勒、高輪車に乘るので称す）を擊ち，大いに之を破り，俘獲は萬餘口，馬、牛、羊百餘萬頭なり。

■征虜將軍の**桓沖**を以て江州刺史と為す。十一月，**姚襄**の故將の**張駿**（桓溫が姚襄を破るとき、張駿を獲り尋陽に遷す）は江州督護の**趙毘**を殺し，其の徒を帥いて北に叛く。**沖**は討ちて之を斬る。

孝宗穆皇帝下興寧二年（甲子，３６４年）

▲春，正月，丙辰（６日），燕は大赦す。

▲二月，燕の太傅の**評**、龍驤將軍の**李洪**は地を河南に略す。

■［東晋の土断］三月，庚戌（１日）朔，大いに戸口に閲して，令して所在に土斷（北からの寄寓流民をその土着と断定）せしめ，其の法制を嚴にする，之を《庚戌制》と謂う。

■［帝は方士を信じ薬害、褚太后攝政］**帝**は方士の言を信じ，穀を斷ち藥を餌として以て長生を求める。侍中の**高崧**は諫めて曰く、

「此くは成乘の宜しく為すべき所に非ず。陛下の茲の事は，實に日月之食（孔子は君子の過ちは日月の食という）なり。」

聽かず。辛未（２４日），**帝**は藥の發する（副作用）を以て，親ら萬機する能わず，**褚太后**は復た朝に臨みて攝政す。

【前燕は着々南下し洛陽に迫る】

▲［前燕の李洪は許昌、汝南を占領］夏，四月，甲辰（２５日），燕の**李洪**は許昌、汝南を攻め，晉兵を懸瓠（河南省汝陽道汝南県治、現・駐馬店市汝南県）に於いて敗り，潁川太守の**李福**は戰死し，汝南太守の**朱斌**は壽春に奔り，陳郡太守の**朱輔**は退きて彭城を保つ。大司馬の**溫**は遣西中郎將の**袁真**等を使わして之を禦がしめ，**溫**は舟師を帥いて合肥に屯す。燕人は遂に許昌、汝南、陳郡を拔き，萬餘戸を幽、冀二州に徙し，鎮南將軍の**慕容廆**を遣わして許昌に屯せしむ。

■［桓溫は建康召喚を辞す］五月，戊辰（２０日），揚州刺史の**王述**を以て尚書令と為す。大司馬の**溫**に

揚州牧を加え、尚書事を錄さしむ。壬申（２４日），侍中をして**溫**を召し入りて朝政に參さ使むるも，**溫**は辭して至らず。

■［王述は辞するふりをせず］**王述**は職を受ける毎に，虚讓を為さず，其の辭する所は必らず受けざるに於いてす。尚書令と為るに及んで，子の**坦之**は**述**に白す、

「故事には當に讓るべし。」

述は曰く、

「汝は我を堪えずと謂う邪？」

坦之は曰く、

「非ざる也，但だ克く讓るは自ら美事なる耳！」

述は曰く、

「既に之に堪えると謂えば，何為れぞ復た讓らん！人は汝を我に勝ると言うも，定めて及ばざる也。」

前秦［秦王堅は張天錫を涼州牧］六月，秦王の**堅**は大鴻臚を遣わして**張天錫**を拜して大將軍、涼州牧、西平公と為す。

■［桓溫は再度の徵に応じず］秋，七月，丁卯（２０日），詔して復た大司馬の**溫**を徵して入朝せしむ。八月，**溫**は赭圻（安徽省蕪湖道繁昌県の西三十里の峰、現・蕪湖市繁昌区）に至り，尚書の**車灌**に詔して之を止めしめ，**溫**は遂に赭圻に城きずきて之に居り，固く内錄（錄尚書事）を讓り，遙かに揚州牧を領す。

前秦［苻騰は叛を謀り誅殺］秦の汝南公の**騰**は反を謀り，伏して誅せらる。**騰**は，秦主の**生**之弟也。是の時，**生**の弟の晉公の**柳**等は猶ほ五人有り，**王猛**は**堅**に言って曰く、

「五公を去らざれば，終に必ず患いと為らん。」

堅は從わず。

▲［前燕は百官を鄴に移す］燕の侍中の**慕輿龍**は龍城に詣り，宗廟及び留める所の百官を徙して皆な鄴に詣らしむ。(6-189p)

▲［燕は洛陽を招納へ］燕の太宰の**恪**は將に洛陽を取らんとし，先ず人を遣わして士民を招納せしめ，遠近の諸塢（漢帝国崩壊後の新しい集落形態、村塢）は皆な之に歸す。乃ち**司馬悅希**をして盟津に軍せ使め，豫州刺史の**孫興**を成皋に軍せしむ。

■［沈勁の徵兵と陳祐の洛陽守備、燕の侵攻］初め，**沈充**（～324、王敦の乱に死す）之子の**勁**は，其の父の逆亂（93巻明帝太寧二年にあり）に死すを以て，志は功を立てて以て舊恥を雪がんと欲す。年三十餘にして，刑家なるを以て仕えるを得ず。吳興太守の**王胡之**は司州刺史と為る，上疏して**勁**の才行を稱し，禁錮を解きて，其の府の事に參するを請い，朝廷は之を許す。會々**胡之**の病いを以て，行われず。燕人が洛陽に逼るに及び，冠軍將軍の**陳祐**は之を守るも，衆は二千に過ぎず。**勁**は自ら表して**祐**に配して力を效するを求める。詔して**勁**を以て冠軍長史に補し，自ら壯士を募ら令め，千餘人を得て以て行く。**勁**は屢々少なきを以て燕の衆を擊ち，之を摧破する。而して洛陽の糧は盡き援は絶え，**祐**は自ら守る能わざるを度り，乃ち許昌を救うを以て名と為し，九月，**勁**を留めて五百人を以て洛陽を守らしむ，**祐**は衆を帥いて而して東す。

勁は喜んで曰く、

「吾が志は命を致さんと欲し，今之を得る矣。」

祐は許昌の已に沒するを聞き，遂に新城に致る。燕の**悅希**は兵を引いて河南の諸城を略し，盡く之を取る。

前秦［秦の諸公の降爵］秦王の**堅**は公國に命じて各々三卿（郎中令・中尉・大農）を置き，並びに餘官は皆な

自ら采辟（採用辟召）を聽し，獨り為に郎中令を置く。富商の**趙掇**等は車服は僭侈にして，諸公は競いて引いて以て卿と為す。黄門侍郎の安定の**程憲**は**堅**に言って，之を治めるを請う。**堅**は乃ち下詔して稱す、
「本より諸公をして英儒を延選せ使めんと欲するに，乃ち更に猥濫是くの如しとは！宜しく有司に令して推檢せ令めて，辟召して其の人に非ざる者は，悉く降爵して侯と為し，今より國官は皆な之を銓衡（吏部尚書）に委ねるべし。命士已上に非ざるよりは，車馬に乗るを得ず。京師を去ること百里の内は，工商皁隷は，金銀、錦繡を服するを得ず。犯す者は市に棄てるべし！」
是に於いて平陽、平昌、九江、陳留、安樂の五公は皆な降爵して侯と為す。

孝宗穆皇帝下興寧三年（乙丑３６５年）

■春，正月，庚申（１６日），皇后の**王氏**は崩ず。
代**劉衛辰**は復た代に叛す（前回は升平五年），代王の**什翼犍**は東に河を渡り，撃ちて之を走らす。
代［什翼犍の性は頗る寛容］**什翼犍**は性は寛厚にして，郎中令の**許謙**は絹二匹を盗み，**什翼犍**は知りて而して之を匿し，左長史の**燕鳳**に謂って曰く、
「吾は**謙**之面を視るに忍びず，卿は慎しみて洩らす勿れ。若し**謙**が慚じて而して自殺すれば，是れ吾が財を以て士を殺す也。」
嘗て西部の叛者を討ちて，流矢は目に中たる。既に而して射る者を獲り，群臣は之を臠割せんと欲し，**什翼犍**は曰く、
「彼は各々其の主の為に斗かう耳，何の罪あるや！」
遂に之を釋す。
■［桓溫・桓沖の軍事権拡大］大司馬の**溫**は移りて姑孰（現・安徽省馬鞍山市当塗県の姑溪河と長江の合流点の南側の金柱塔）に鎮す。二月，乙未（２１日），其の弟の右將軍の**豁**を以て荊州、揚州之義城（郡、襄陽に治す）、(6-190p) 雍州之京兆（郡、襄陽に僑立す）諸軍事を監し，荊州刺史を領せしめ，江州刺史の**桓沖**（初め江州刺史のみ）に監江州及荊、豫八郡諸軍事を加え，並びて節を假す。
■［帝崩御、琅邪王の弈即位］司徒の**昱**は**陳祐**の洛陽を棄てるを聞き，大司馬の**溫**に洌洲（江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）に於いて會い，共に征討するを議す。丙申（２２日），**帝**は（大極殿の）西堂に於いて崩じ（年 25），事は遂に寢(や)む。**帝**は嗣無く，丁酉（２３日）**皇太后**は詔して琅邪王の**弈**(えき)を以て大統を承けしむ。百官は琅邪の第に奉迎し，是の日，**皇帝**に即位し，大赦す。
前秦秦は大赦し，改元して建元とす。

【前燕は洛陽を占領、最大領域】

▲［前燕は洛陽を落とし、沈勁を殺す］燕の太宰の**恪**、吳王の**垂**は共に洛陽を攻める。**恪**は諸將に謂って曰く、
「卿等は常に吾が攻めざるを患う，今洛陽は城高けれど而して兵は弱く，克つは易き也，更に畏懦し而して怠惰する勿かれ！」
遂に之を攻める。三月，之に克ち，揚武將軍の**沈勁**を執る。**勁**は神氣自若にして，**恪**は將に之を宥さんとす。中軍將軍の**慕輿虔**は曰く、
「**勁**は奇士と雖も，其の志度を觀るに，終に人の用いると為すにあらず，今之を赦せば，必ず後の患いと

為らん。」
遂に之を殺す。
▲［慕容恪は關中近くにも進出し、前秦は備える］**恪**は地を略して崤（崤谷、宝鶏県のとは違う、峡谷の意味も）、澠（澠池、現・三門峡市澠池県）に至り，關中は大いに震え，秦王の**堅**は自ら將して陝城（現・三門峡市陝州区）に屯し以て之に備える。
▲［慕容垂を魯陽に配す］燕人は左中郎將の**慕容築**を以て洛州刺史と為し，金墉（洛陽の城）に鎮せしむ。吳王の**垂**を都督荊、揚、洛、徐、兗、豫、雍、益、涼、秦十州諸軍事、征南大將軍、荊州牧と為し，兵一萬を配し，魯陽（現・平頂山市魯山県）に鎮ぜしむ。
▲［慕容恪は有能の士を得ざるを悔いる］太宰の**恪**は鄴に還り，僚屬に謂って曰く、
「吾は前に廣固を平らげ，**辟閭蔚**（356 年段龕配下で有能なので助けんとするが負傷死）を濟（すく）う能わず。今洛陽を定め，**沈勁**をして戮と為ら使む。皆な本情に非ずと雖も，然るに身は元帥為り，實に四海に愧じる有り。」
■朝廷は**勁**之忠を嘉として，東陽太守を贈る。
■臣**光**曰く、**沈勁**は能ある子と謂う可き矣！父之惡を恥じ，死を致して以て之を滌（すす）ぎ，凶逆之族を變じて忠義之門と為す。《易》に曰く、
「父之蠱（まじない虫）に干たり，用（も）って譽あり。」
《蔡仲之命》（書経の篇の名）に曰く、
「爾は尚（こいねが）わくは前人之愆（あやまち）を蓋（おお）い，惟（こ）れ忠惟れ孝なり。」
其れ是之謂いなる乎！
▲［慕容恪は恩信をもって士卒を撫でる］太宰の**恪**は將と為り，威嚴を事とせず，專ら恩信を用いて，士卒を撫で務めて大要を綜じ，苛令を為さず，人人をして便安を得使む。平時の營中は寛縱にて，犯す可き若きに似たり。然るに警備は嚴密にして，敵至れば能く近づく者莫く，故に未だ嘗て負敗せず。
■壬申（２９日），**哀帝**及び**靜皇后**を安平陵に葬す。
▲［四朝に歴事した燕の司空の陽騖］夏，四月，壬午（９日），燕の太尉の武平匡公の**封弈**は卒す。司空の**陽騖**（ぶ）を以て太尉，侍中と為し、光祿大夫の**皇甫真**を司空と為し，中書監を領せしむ。**騖**は四朝に歴事し，年耆にして望み重く，太宰の**恪**より以下皆な之を拜す。而して**騖**は謙恭謹厚にして，少き時より過ぎたり。子孫を戒束（戒勅）し，朱紫は羅列すると雖も，(6-191p) 敢えて其の法度に違犯する者無し。

■［益州刺史の周撫は卒す］六月，戊子（１６日），益州刺史の建城の襄公の**周撫**は卒す。**撫**は益州に在ること三十餘年，甚だ威惠有り。詔して其の子の犍為太守の**楚**を以て之に代らしむ。
■秋，七月，己酉（７日），會稽王の**昱**を徙して復た琅邪王と為す。
■壬子（１０日），妃の**庾氏**を立てて**皇后**と為す。**后**は，**冰**之女也。
■甲申（甲子なら２２日），琅邪王の**昱**の子の**昌明**を立てて會稽王と為す。**昱**は固く讓り，猶ほ自ら會稽王と稱す。

代［前秦は匈奴の大反乱鎮圧］匈奴の右賢王の**曹轂**、左賢王の**劉衛辰**は皆な秦に叛す。**轂**は衆二萬を帥いて杏城（現・延安市黄陵県）を寇し，秦王の**堅**は自ら將して之を討ち，衛大將軍の**李威**、左僕射の**王猛**をして太子の**宏**を輔けて長安を留守せ使む。八月，**堅**は**轂**を擊ち，之を破り，**轂**の弟の**活**を斬り，**轂**は降を請い，其の豪傑六千餘戸を長安に徙す。建節將軍の**鄧羌**は**衛辰**を討ち，之を木根山（朔方、内蒙古オルドス）にて

擒にす。

前秦［淮南公の苻幼の反乱］九月，堅は朔方に如き，諸胡を巡撫す。冬，十月，征北將軍、淮南公の幼（秦主生の弟）は杏城之衆を帥いて虚に乘りて長安を襲い，李威は擊ちて之を斬る。

鮮卑鮮卑の禿髮椎斤は卒す，年一百一十，子の思復鞬は代わりて其の衆を統べる。椎斤は，樹機能（晉の武帝紀に涼州を乱すとある）の從弟の務丸之孫也。

■［梁州刺史の司馬勳は自立を謀る］梁州刺史の司馬勳は，政を為すに酷暴にして，治中、別駕及び州之豪右は，言語は意に忤（さから）えば，即ち坐に於いて之を梟斬（きょうざん）し，或は親ら之を射殺す。常に蜀に據る之志有り，周撫を憚り，敢えて發せず。撫の卒するに及び，勳は遂に兵を擧げて反す。別駕の雍端、西戎司馬（西夷校尉の属官）の隗粹は切に諫め，勳は皆な之を殺し，自ら梁、益二州牧、成都王と號す。十一月，勳は兵を引いて劍閣に入り，涪を攻め，西夷校尉（晉初に汶山に治し、いま涪城に治す）の毋丘暐は城を棄てて走る。乙卯（１５日），益州刺史の周楚を成都に圍む。大司馬の溫は表して鷹揚將軍の江夏の相の義陽の朱序を征討都護と為して以て之を救わしむ。

前秦秦王の堅は長安に還り，李威を以て太尉を守らしめ，侍中を加える。曹轂を以て雁門公と為し，劉衛辰を夏陽公と為し，各々其の部落を統べ使む。

■十二月，戊戌（２９日），尚書の王彪之を以て僕射と為す。

海西公上孝宗穆皇帝下太和元年（丙寅，３６６年）

（司馬弈、字は延齢。哀帝の母弟、咸康八年東海王、穆帝升平五年琅邪王、即位後桓溫が廃し海西公）

■春，三月，荊州刺史の桓豁は督護の桓羆をして南鄭を攻め使め，司馬勳を討つ。

▲燕の太宰、大司馬の恪，太傅、司徒の評は，稽首して政を歸し，章綬を上（たてまつ）り，第に歸らんと請う。燕主の暐は許さず。(6-192p)

■夏，五月，戊寅（４１日?），皇后の庾氏は崩ず。

■［朱序らは司馬勳を討伐］朱序、周楚は司馬勳を擊ち，之を破り，勳及び其の黨を擒とし，大司馬の溫に送る。溫は皆な之を斬り，首を建康に傳える。

代代王の什翼犍は左長史の燕鳳を遣わして秦に入貢せしむ。

■秋，七月，癸酉（３７日?），孝皇后（庾氏）を敬平陵に葬す。

前秦［前秦は荊州を犯す］秦の輔國將軍の王猛、前將軍の楊安、揚武將軍の姚萇等は衆二萬を帥いて荊州を寇し，南鄉郡を攻め，荊州刺史の桓豁は之を救う。八月，新野に軍す。秦兵は安陽（載記には漢陽に作る）の民萬餘戸を掠めて而して還る。

■九月，甲午（３０日），梁、益二州に曲赦（地域限定の恩赦）す。

■冬，十月，司徒の昱に丞相を加え、尚書事を錄さしめ，入朝して趨（はし）らず，贊拜して名せず，劍履して殿に上らしむ。

■［前涼は秦と国交断絶］張天錫は遣使して秦の境に至り，上告して秦に絶つ。

▲［前燕は魯、高平の數郡を拔く］燕の撫軍將軍の下邳の王厲は兗州を寇し，魯、高平（現・山東省菏沢市単県）の數郡を拔き，守宰を置いて而して還る。

前秦［隴西の李儼は張天錫に通じる］初め，隴西（現・甘粛省定西市隴西県）の李儼は郡（前年に拠る）を以て秦に降り，既に而して復た張天錫に通じる。十二月，羌斂岐は略陽の四千家を以て秦に叛し，儼の臣を稱

す。**儼**は是に於いて牧守を拜置し，秦、涼と絶つ。
■[宛城は燕に降る]南陽の督護の**趙億**は宛城に據りて燕に降り，太守の**桓澹**は走りて新野を保つ。燕人は南中郎將の**趙盤**を遣わして魯陽（現・河南省平頂山市魯山県）より宛に戍せしむ。
■徐、兗二州刺史の**庾希**は，**后**の族を以ての故に，兄弟は貴顯なり，大司馬の**溫**は之を忌む。

孝宗穆皇帝下太和二年（丁卯３６７年）

■春，正月，**庾希**は魯、高平を救う能わざるに坐して，免官す。
▲二月，燕の撫軍將軍の下邳の**王厲**、鎮北將軍の宜都の**王桓**は敕勒を襲う。

【前秦・前涼・李儼・羌斂岐の乱戦】

前秦 前涼 [秦は羌斂岐を討つ、張天錫は李儼を討つ] 秦の輔國將軍の**王猛**、隴西太守の**姜衡**、南安太守の南安の**邵羌**、揚武將軍の**姚萇**等は衆萬七千を帥いて**斂岐**を討つ。三月，**張天錫**は前將軍の**楊遹**を遣わして金城（現・甘粛省蘭州市西固区）に向わしめ，征東將軍の**常據**を左南（甘粛省西寧道碾伯県、現・青海省海東市樂都区）に向わしめ，游擊將軍の**張統**を白土（甘粛省西寧道西寧県、現・青海省西寧市）に向わしめ，**天錫**は自ら三萬人を將いて倉松（現・甘粛省武威市古浪県）に屯し，以て**李儼**を討つ。**斂岐**の部落は先に**姚弋仲**に屬し，**姚萇**の至るを聞き，皆な降る。**王猛**は遂に略陽を猛攻す。**斂岐**は白馬（甘粛省渭川道成県、現・隴南市成県）に奔る。秦王の**堅**は**萇**を以て隴東太守と為す。
■▲[慕容塵は竟陵を寇し撃退] 夏，四月，燕の**慕容塵**は竟陵を寇し，太守の**羅崇**は撃ちて之を破る。(6-193p)
前秦 前涼 [李儼は前秦に救援を求め三つ巴] **張天錫**は**李儼**の大夏（張駿は武始・興晉・廣武を分けて大夏郡を置く、甘粛道蘭山道導河県の東南、現・臨夏回族自治州臨夏市）、武始（張駿は狄道県に武始を置く、甘粛省蘭山道狄道県、現・定西市臨洮県）二郡を攻め，之を下す。**常據**は**儼**の兵を葵谷（甘粛道蘭山道導河県、現・臨夏回族自治州臨夏市）に敗り，**天錫**は進みて左南に屯す。**儼**は懼れ，退きて枹罕（現・臨夏回族自治州臨夏市）を守り，其の兄の子の**純**を遣わして秦に謝罪し，且つ救いを請う。秦王の**堅**は前將軍の**楊安**、建威將軍の**王撫**をして騎二萬を帥いて，**王猛**に會して以て**儼**を救わしむ。
前秦 前涼[王猛は前涼と相戦わずを提案]**猛**は**邵羌**を遣わして**斂岐**を追い，**王撫**をして侯和を守らしめ，**姜衡**をして白石（甘粛道蘭山道導河県の西南、現・臨夏回族自治州臨夏市）を守らしめ，**猛**は**楊安**と枹罕を救う。**天錫**は**楊遹**を遣わして枹罕の東に逆(むか)え戦い，**猛**は大いに之を破り，俘斬は萬七千級，**天錫**と城下に相い持つ。**邵羌**は**斂岐**を白馬にて禽にして，之を送る。**猛**は**天錫**に書を遣わして曰く、
「吾は詔を受けて**儼**を救い，涼州と戦わ令めず，今當に壁を深く壘は高く，以て後詔を聽くべし。曠日持久すれば，恐らくは二家（秦・涼）は俱に弊れ，良算に非らざる也。若し將軍が退き捨てれば，吾は**儼**を執りて而して東し，將軍は民を徙して西に旋らん，亦た可ならざる乎！」
天錫は諸將に謂って曰く、
「**猛**の書は此くの如し。吾は本より來たりて叛を伐ち，來たりて秦と戦うにあらず。」
遂に兵を引いて歸る。
前秦[王猛は白服して乗り込み李儼を獲る] **李儼**は猶ほ未だ秦の師を納めず，**王猛**は白服して輿に乗り，從者は數十人，**儼**と相い見るを請う。**儼**は開門して之を延き，未だ備えを為すに及ばず，將士は繼いで入

り，遂に**儼**を執る。立忠將軍（苻堅の置く官）の**彭越**を以て平西將軍、涼州刺史と為し，枹罕に鎮ぜしむ。
前秦［李儼は賀肫の謀略を逆手に生き残る］**張天錫**之西に歸る也，**李儼**の將の**賀肫**は**儼**を説いて曰く、
「**明公**の神武，將士の驍悍なるを以て，奈何して手を人に束ねるや！**王猛**は孤軍にして遠く來たり，士卒は疲弊し，且つ我が救いを請うを以て，必ず備えを設けず，若し其の怠たるに乘じて而して之を擊てば，以て志を得る可し。」
儼は曰く、
「救いを人に求めて以て難を免れ，難は既に免かれて而して之を擊つは，天下は其の我に何を謂うか！固く守りて以て之を老するに若かず，彼は將に自ら退かん」。
猛は**儼**を責めるに即ち出でて迎えざるを以てし，**儼**は**賀肫**之謀を以て告げる。**猛**は**肫**を斬り，**儼**を以て歸す。長安に至り，**堅**は**儼**を以て光祿勳と為し，爵歸安侯を賜わる。

【慕容恪没後の前燕衰退】

▲［慕容恪は垂に後事を託すべしとして卒す］燕の太原の桓王の**恪**は燕主の**暐**に言って曰く、
「吳王の**垂**は，將相之才は，臣の十倍あり。**先帝**は長幼之次を以て，故に臣は之に先んじるを得る。臣死して之後は，願はくは**陛下**は國を舉げて以て**吳王**に聽くべし。」
五月，壬辰（３１日），**恪**の疾は篤し。**暐**は親ら之を視，問うに後事を以てす。**恪**は曰く、
「臣は聞く、恩を報じるには賢を薦すより大なるは莫し，賢者は板築に在りと雖も（殷の高宗は伝説を板築の間より起こす），猶ほ相と為す可く，況んや至親を乎！**吳王**は文武に兼ねて資（資質）あり，管、蕭（管仲、蕭何）之亞なり。**陛下**が若し任ずるに大政を以てすれば，國家は安かる可し。然らずんば，秦、晉は必ず窺窬（隙を覗う）之計有らん。」
言い終わりて而して卒す。
前秦［前秦は恪亡き後の燕攻略を仕掛ける］秦王の**堅**は**恪**の卒するを聞き，陰かに燕を圖る之計の有り，其の可否を覘（うかが）わんと欲し，匈奴の**曹轂**（匈奴の右賢王、前年秦に降る）に命じて使いを發して燕に如きて朝貢せしめ，(6-194p) 西戎主簿（西戎校尉の属官）の馮翊の**郭辯**を以て之の副と為す。燕の司空の**皇甫真**（元々安定の人、燕に仕える）の兄の**腆**及び從子の**奮**、**覆**は皆な秦に仕え，**腆**は散騎常侍と為る。**辯**は燕に至り，公卿を歴造（歴訪）し，**真**に謂って曰く、
「僕は本は秦人なり，家は秦の誅する所と為り，故に命を**曹王**に寄す。貴兄は常侍及び**奮**、**覆**の兄弟並びに相い知ること素有り。」
真は怒りて曰く、
「臣は境外之交し，此の言は何を以て我に及ぶや！君は奸人に似たり，因縁假托する無きを得ん乎！」
暐に白（もう）し，之を窮治せんと請い，太傅の**評**は許さず。**辯**は還り，**堅**の為に言わく、
「燕の朝政は綱紀無く，實に圖る可き也。機を鑒み變を識るは，唯だ**皇甫真**耳。」
堅は曰く、
「六州（幽幷冀司兗豫）之衆を以て，豈に智士一人有ら使めざるを得ん哉！」
前秦**曹轂**は尋いで卒し，秦は其の（匈奴の）部落を分けて二と為し，其の二子をして分けて之を統べ使め，號して東、西曹とす。（貳城の西の二万落は長子璽、東二万落は小子寅の支配）

■［東晋は宛を奪還］荊州刺史の**桓豁**、竟陵太守の**羅崇**は宛を攻め，之を拔く。**趙億**は走り，**趙盤**は退き

て魯陽に歸る。**豁**は**盤**を雉城（雉県は南陽郡、河南省汝南道南召県、現・南陽市南召県）に追撃して，之を擒にし，兵を留めて宛に戍せしめ而して還る。
▲秋，七月，燕の下邳の**王厲**等は敕勒を破り，馬牛數萬頭を獲る。
代初め，**厲**の兵は代の地を過ぎ，其の穄（黍）田を犯す。代王の**什翼犍**は怒る。燕の平北將軍の武強公の**泥**は幽州の兵を以て雲中に戍す。八月，**什翼犍**は雲中を攻め，**泥**は城を棄てて走り，振威將軍の**慕輿賀辛**は戰沒す。
■九月，會稽內史の**郗愔**を以て都督徐、兗、青、幽、揚州之晉陵諸軍事、徐、兗二州刺史と為し，京口に鎮ぜしむ。

【前秦內乱頻発の危機】
前秦［秦の四公の反乱］秦の淮南公の**幼**之反する也（365 年），征東大將軍、并州（蒲阪に治す）牧、晉公の**柳**、征西大將軍、秦州刺史（上邽に治す、現・天水市秦州区）の趙公の**雙**は，皆な之と通謀す。秦王の**堅**、**雙**は、母弟を以て至って親し。**柳**は，**健**之愛子にして，隱して而して問わず。**柳**、**雙**は復た鎮東將軍、洛州刺史（陝に治す）の魏公の**廋**（苻健の子）、安西將軍、雍州刺史（安定に治す）の燕公の**武**（苻健の子）と與に亂を作さんと謀り，鎮東主簿の南安の**姚眺**は諫めて曰く、
「明公は**周**（周公旦）、**郡**（郡公廋）之親を以て，方面之任を受く，國家に難有れば，當に力を竭くして之を除くべし，況んや自ら難を為す乎！」
廋は聽かず。**堅**は之を聞き，**柳**等を徵して長安に詣らしむ。冬，十月，**柳**は蒲阪に據り，**雙**は上邽に據り，**廋**は陝城に據り，**武**は安定に據り，皆な兵を舉げて反す（王猛の予言の如し）。**堅**は遣使して之を諭して曰く、
「吾は卿等を待つこと，恩は亦た至れり矣，何の苦みて而して反するや！今止めて征さず，卿は宜しく兵を罷むべし，各々其の位を安（続は定）んじ，一切故の如し。各々梨を嚙みて以て信と為さん。」（梨の果肉は脆くて噛み易し。親戚の離反は国力脆く、敵に乗ぜられ易いに喩える。）（6-195p）
皆な從わず。

代［什翼犍は劉衛辰を撃破、衛辰は前秦につく］代王の**什翼犍**は**劉衛辰**を撃ち，河冰は未だ合わず（河が凍結している方が渡り易い），**什翼犍**は命じて葦絲を以て互いに流澌（流れる氷）を約さしむ。俄に而して冰は合い，然れども猶ほ未だ堅からず，乃ち葦は其の上に散じ，冰草は相い結び，浮梁の如き有り，代の兵は之に乘りて以て渡る。**衛辰**は兵が猝に至るとは意（おも）わず，宗族と西に走り，**什翼犍**は其の部落の什に六七を收めて而して還る。**衛辰**は秦に奔り，秦王の**堅**は**衛辰**を送りて朔方に還し，兵を遣わして之に戍せしむ。
▲［大尉陽騖は卒す、皇甫真は大尉］十二月，甲子（３７日?），燕の太尉の建寧の敬公の**陽騖**は卒す。司空の**皇甫真**を以て侍中、太尉と為し，光祿大夫の**李洪**を司空と為す。

孝宗穆皇帝下太和三年（戊辰，３６８年）

前秦［苻堅は三方面に出陣］春，正月，秦王の**堅**は後將軍の**楊成世**、左將軍の**毛嵩**を遣わして分けて上邽、安定を討たしめ，輔國將軍の**王猛**、建節將軍の**鄧羌**をして蒲阪を攻めしめ、前將軍の**楊安**、廣武將軍の**張蚝**をして陝城を攻めしむ。**堅**は蒲、陝之軍に命ず、
「皆な城を距（へだ）てること三十里，壁を堅くして戰う勿かれ，秦、雍の已に平らぐを俟ちて，然る後に力を並

せて之を取らん」。

▲［慕容評は恪の遺言に反して、慕容沖を大司馬とす］初め，燕の太宰の**恪**の疾有り，以えらく、燕主の**暐**が幼弱なりて，政は己（おのれ）に在らず。太傅の**評**は猜忌多く，恐らくは大司馬之任は其の人に當たらず，**暐**の兄の樂安王の**臧**に謂って曰く、

「今南には遺晉有り，西には強秦有り，二國は常に進取之志を蓄え，顧みるに我は未だ隙有る耳。夫れ國之興衰は，輔相に系かる。大司馬は六軍を總統し，其の人に非ざるに任ず可からず。我の死する之後，親疏を以て之を言えば，當に汝及び**沖**在り。汝曹は才識明敏と雖も，然るに年少く，未だ多難に堪えず。**吳王**（慕容垂）は天資英傑にして，智略は世を超え，汝曹が若し能く大司馬を推して以て之に授ければ，必ず能く四海を混壹せん，況んや外寇は，憚るに足らざる也。慎んで利を冒して而して害を忘れ，國家を以て意と為さざる無き也。」

又た以て太傅の**評**に語る。**恪**の卒するに及び，**評**は其の言を用いず。二月，車騎將軍の中山王の**沖**を以て大司馬と為す。**沖**は，**暐**之弟也。荊州刺史の吳王の**垂**を以て侍中、車騎大將軍、儀同三司と為す。

▲［苻廋は陝城で燕に降らんとす］秦の魏公の**廋**は陝城を以て燕に降り，（燕の）兵の應接するを請う。秦人は大いに懼れ，兵を盛んにして華陰（陝城の西の潼關など近く、陝西省關中道華陰県、現・渭南市華陰市）を守る。

▲［范陽王の德は陝城救援の利を説くが、評動かず］燕の魏尹（燕は鄴に都し、魏郡の太守を魏尹とす）の范陽王の**德**は上疏し，以て為す、

「**先帝**は天に應じて命を受け，六合を平らげんと志す。**陛下**は統を纂（つ）ぐ，當に繼ぎて而して之を成すべし。今**苻氏**は骨肉乖離し，國は分けて五（蒲阪・陝城・上邽・安定・長安）と為り，誠を投じて援を請い，前後は相い尋ぐ，是れ天が秦を以て燕に賜わる也。天の與えるに取らざれば，反って其の殃を受け，吳、越之事（国語に越の范蠡（はんれい）は曰く、昔天は越を以て呉に賜う、呉は敢えて取らざりき、今天は呉を以て越に賜う、越其れ敢えて天に逆らわんやと）は，以て觀るに足る矣。宜しく**皇甫真**に命じて幷、冀之衆を引いて徑（ただ）ちに蒲阪に趨かしめ，吳王の**垂**をして許、洛之兵を引いて馳せて**廋**の圍みを解かしめ，（6-196p）太傅は京師の虎旅を總べて二軍の後繼を為し，檄を三輔に傳え，示すに禍福（損得）を以てし，明らかに購賞を立てれば，彼は必ず風を望みて響き應ずべし。渾一之期は，此に於いて乎在り矣！」

時に燕人の陝を救い，因りて關中を圖らんと請う者多し，太傅の**評**は曰く、

「秦は，大國也，今難有ると雖も，未だ易く圖る可からず。朝廷（燕人は燕主を朝廷という）は明らかなりと雖も，未だ**先帝**に如かず。吾等の智略は，又た太宰之比に非ず。但だ能く關を閉じ境を保つには足りん矣，秦を平らぐるは吾が事に非ざる也。」

▲［燕はついに動かず］魏公の**廋**は吳王の**垂**及び**皇甫真**に箋を遣わして曰く、

「**苻堅**、**王猛**は，皆な人傑也，燕の患いを為さんと謀ること久し矣。今機に乗じて之を取らざれば，恐らくは異日燕之君臣は將に甬東之悔い（左傳にあり、呉越の話題）有らん矣！」

垂は**真**に謂って曰く、

「方に今人の患いを為す者は必ず秦に在り。**主上**は春秋に富み，太傅の識度を觀，豈に能く**苻堅**、**王猛**に敵せん乎？」

真は曰く、

「然り，吾は之を知ると雖も，言の用いられざるを如何せん！」

■三月，丁巳（１日）朔，日之を食する有り。
■癸亥（７日），大赦す。
前秦［王鑒・呂光は雙・武を破る］秦の**楊成世**は趙公の**雙**の將の**苟興**に敗る所と為り，**毛嵩**は亦た燕公の**武**の敗る所と為り，奔りて還る。秦王の**堅**は復た武衛將軍の**王鑒**、寧朔將軍の**呂光**（後の後涼主）、將軍の馮翊の**郭將**、**翟辱**等を遣わして衆三萬を帥いて之を討たしむ。夏，四月，**雙**、**武**は勝ちに乘りて榆眉に至り，**苟興**を以て前鋒と為す。**王鑒**は速かに戰わんと欲し，**呂光**は曰く、
「**興**は新たに志を得，氣勢は方に鋭なり，宜しく重きを持ちて以て之を待つべし。彼の糧が盡きれば必ず退き，退けば而して之を擊てば，濟らざる蔑からん矣！」
二旬にして而して**興**は退く。**光**は曰く、
「**興**を擊つ可し矣。」
遂に之を追い，**興**は敗れる。因りて**雙**、**武**を擊ち，大いに之を破り，斬獲は萬五千級。**武**は安定を棄て，**雙**と皆な上邽に奔り，**鑒**等は進みて之を攻める。
前秦［王猛・鄧羌は晉公の柳を破る］晉公の**柳**は數々出でて挑戰し，**王猛**は應じず。**柳**は**猛**を以て之を畏れると為す。五月，其の世子の**良**を留めて蒲阪を守らしめ，衆二萬を帥いて西に長安に趨く。蒲阪を去ること百餘里，**鄧羌**は鋭騎七千を帥いて夜襲し，之を敗る。**柳**は軍を引いて還り，**猛**は邀えて之を擊ち，盡く其の衆を俘とす。**柳**は數百騎と城に入り，**猛**、**羌**は進みて之を攻める。
前秦［王鑒は雙・武を斬る］秋，七月，**王鑒**等は上邽を拔き，**雙**、**武**を斬り，其の妻子を宥す。左衛將軍の**苻雅**を以て秦州刺史と為す。■八月，長樂の**丕**を以て雍州刺史と為す。
前秦［王猛は蒲阪を拔く］九月，**王猛**等は蒲阪を拔き，晉公の**柳**及び其の妻子を斬る。**猛**は蒲阪に屯し，**鄧羌**を遣わして**王鑒**等と會して陝城を攻めしむ。

▲［燕の悅綰は私有民禁止、戸籍整備で反発される、卒す］燕の王公、貴戚は多く民を占めて蔭戸（私有民で租税を納めず）と為し，國之戸口は私家よりも少なく，倉庫は空竭し，用度は足らず。尚書左僕射の廣信公の**悅綰**は曰く、
「今三方（燕・秦・晉）は鼎峙（三つ巴で対峙）し，各々呑併之心有り。而るに國家の政法は立たず，豪貴（豪族貴族）は恣横にして，民戸をして殫盡し，委輸（地方から中央への上納）は入る無から使め，吏は常俸を斷ち，戰士は廩を絶ち，(6-197p) 官は粟帛を貸して以て自ら贍給するに至る。既に鄰りの敵に聞かしむ可からず，且つ治を為す所以に非ず，宜しく一切諸々の蔭戸を罷斷して，盡く郡縣に還すべし。」
燕主の**暐**は之に從い，**綰**をして專ら其の事を治せ使め，奸伏を糾摘（糾挙掲発）し，敢えて蔽匿する無く，戸二十餘萬を出す，朝を舉げて怨怒す。**綰**は先に疾有り，自ら力めて戸籍を厘校し，疾は遂に亟なり。冬，十一月，卒す。

前秦［陝城を拔き魏公の度に死を賜り、子は許す］十二月，秦の**王猛**等は陝城を拔き，魏公の**度**を獲り，長安に送る。秦王の**堅**は其の反する所以を問い，對えて曰く、
「臣は本より反心は無し，但だ弟兄は屢々逆亂を謀るを以て，臣は幷せて死するを懼れ，故に反を謀る耳。」
堅は泣いて曰く、
「汝は素より長者なり，固より汝の心に非ざるを知る也。且つ**高祖**（苻健）は以て後無かる可からず。」

乃ち**度**に死を賜わり，其の七子を原(ゆる)し，長子を以て魏公を襲わしめ，餘の子は皆な縣公に封じ，以て越の**厲王**（苻生は廃せられて越王となり、諡は厲）及び諸弟之後無き者を嗣がしむ。**苟太后**は曰く、
「**度**と**雙**と倶に反し，**雙**は獨り後を置くを得ず，何ぞ也？」
堅は曰く、
「天下者，**高祖**之天下なり，**高祖**之子は以て後無かる可からず。**仲群**（苻雙の字）に至りては，**太后**を顧みず，宗廟を危うくせんと謀る，天下之法は，私する可からざる也。」
范陽公の**抑**を以て征東大將軍、并州刺史と為し，蒲阪に鎮ぜしむ。**鄧羌**を建武將軍、洛州刺史と為し，陝城に鎮ぜしむ。**姚眺**を擢（抜擢）して汲郡太守と為す。
■大司馬の**溫**に殊禮を加え，位は諸侯王の上に在り。
■仇池［仇池の楊世は晉と秦に両属す］是の歳，仇池公の**楊世**を以て秦州刺史と為し，**世**の弟の**統**を武都太守と為す。**世**は亦た秦に臣たるを稱し，秦は**世**を以て南秦州刺史と為す。

令和 2 年 12 月 20 日	翻訳開始	11483 文字	
令和 2 年 12 月 27 日	完訳終了	22525 文字	現代地名年表対応
令和 3 年 12 月 11 日	書下し終了	23129 文字	